


# 制度改革に伴う今後の社会福祉法人の在り方について

## - 社会貢献とサービスの創造 -

### 米百俵の群像



高齢者総合ケアセンターこぶし園  
園長 小山 剛

# 私たちが展開していること

大規模集約モデルから地域生活モデルへの転換

サポートセンターの創設

既存施設の地域分散

24時間365日連続するサービスの提供

サービスの質を担保する専門性と倫理

# 従来型施設の弱点

在宅が困難だから収容  
ハードの投資が高額  
しかし生活環境は狭い  
そして生活がない

# 既存制度の問題点

古い救済意識

生活とは程遠い環境の施設

マーケティング不要の配給制度

硬直化した措置・補助体質

サービスは家族介護の補填レベル

在宅と施設の費用負担の格差

ということは、このままでは地域社会で生活することができない

# 生活環境と投資の矛盾

# お金は高いが 貧弱な住環境

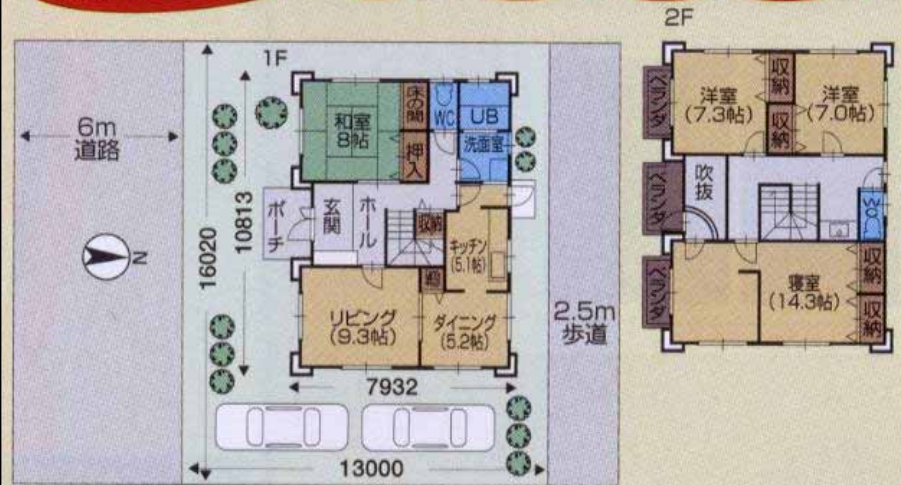


老人ホームの1ベッド

=



地熱システム搭載 外断熱 エアコン カーテン 外構

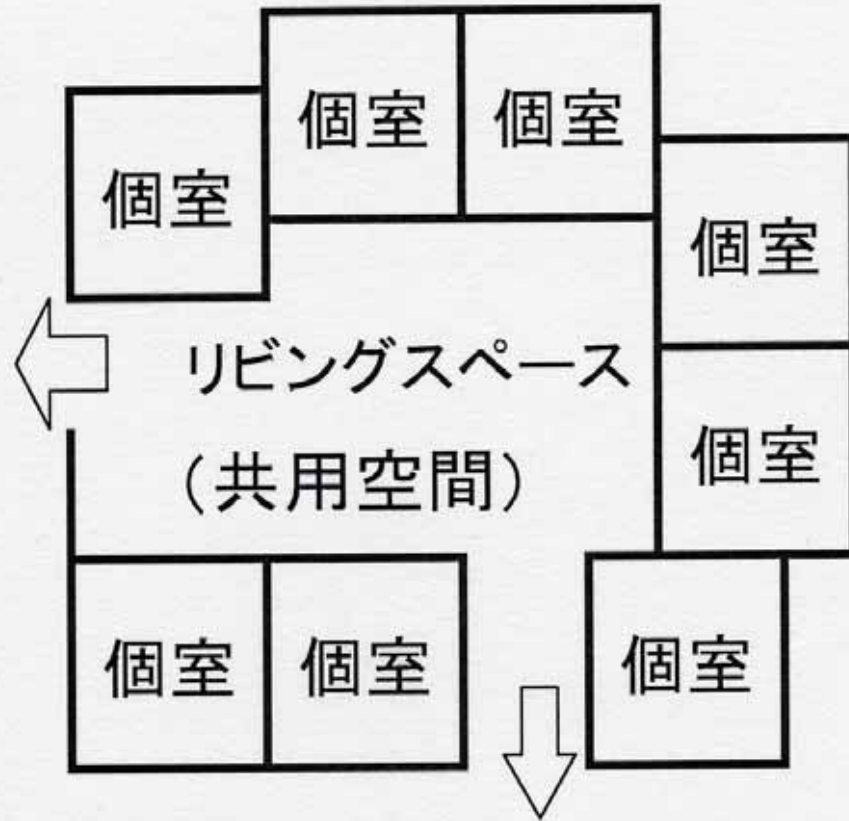


4LDKの一軒家

1500 ~ 4800万円

# 【ユニットケア】

隣のユニットや共用スペース



隣のユニットや  
共用スペース

**メリット**  
個人の生活を守れる個室がある

**デメリット**  
数は少なくとも、他人との共同生活

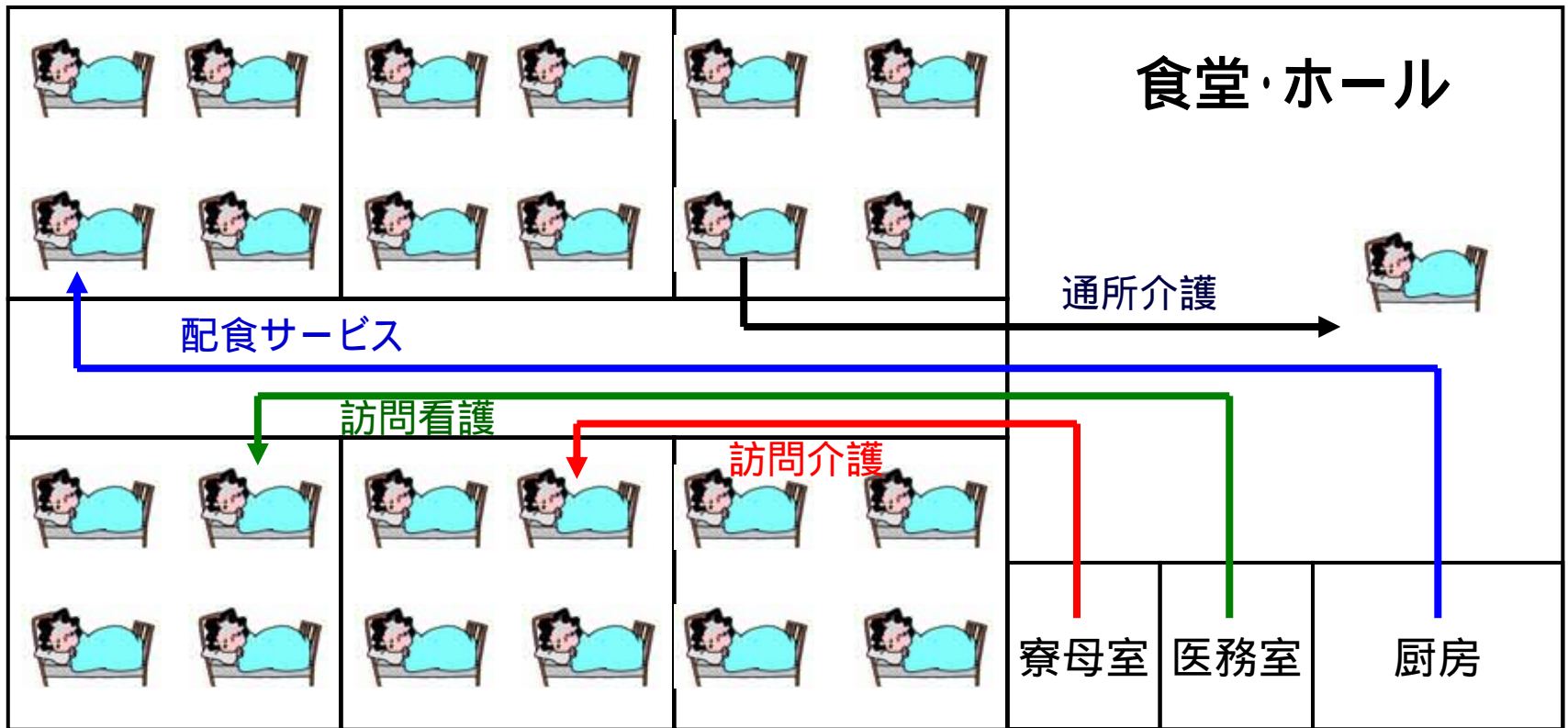
**課題**  
立地は、生活者の居住地内にあること  
生活圏域外であれば拉致と同じこと

# 従来型施設の利点

フルタイム・フルサービス

介護度やサービス量に  
リンクしない定額の負担

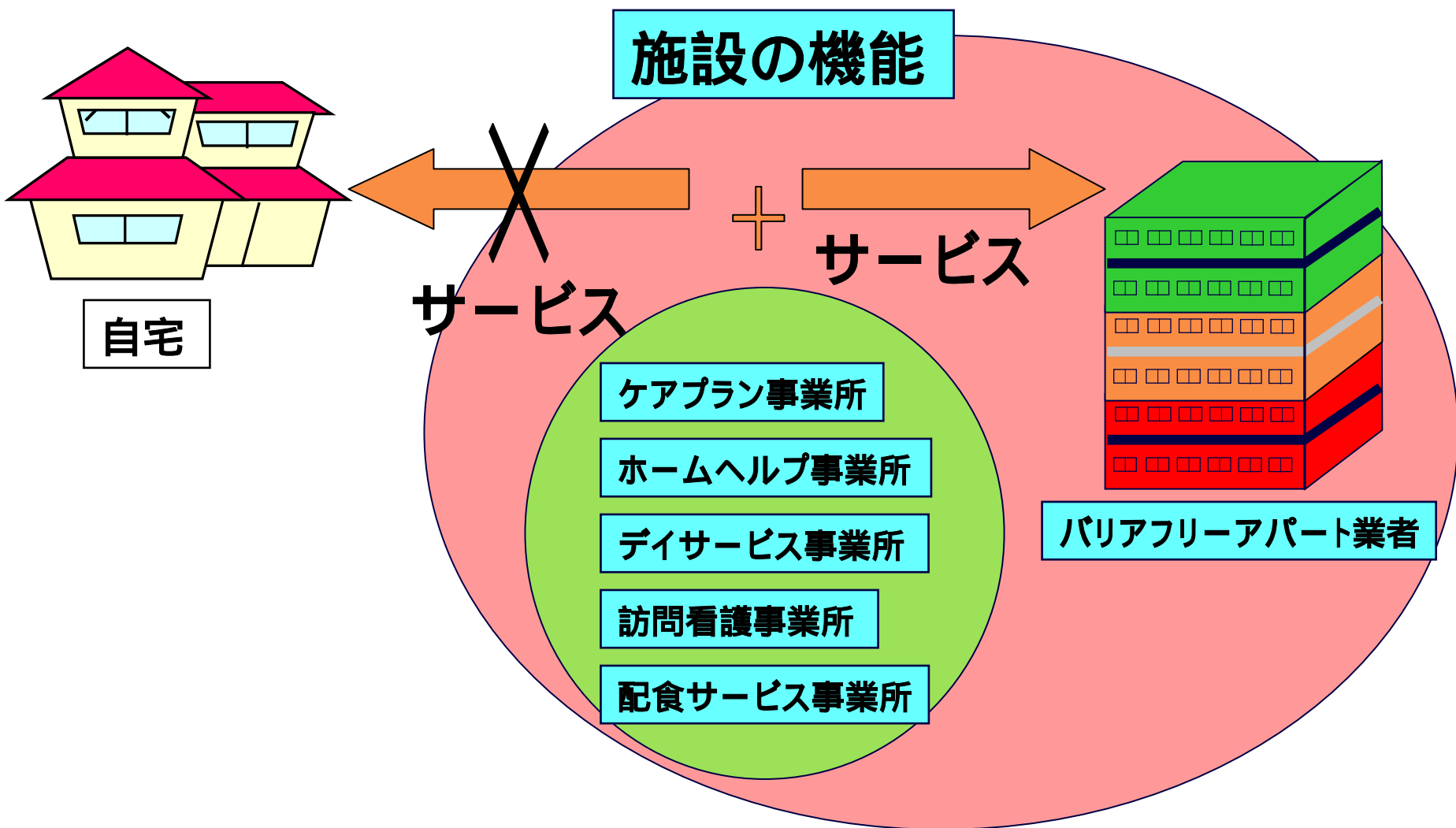




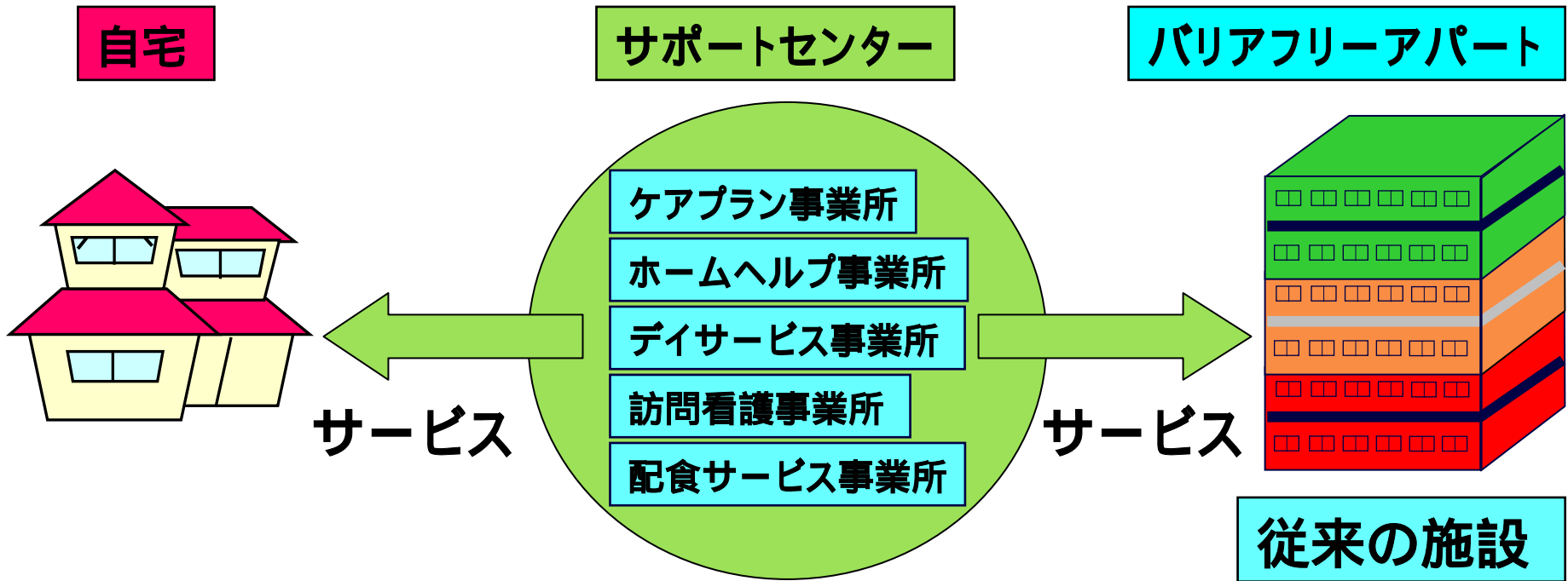
## 施設の仕組み

通所介護・訪問介護・訪問看護・配食サービスを効率的に提供するために、利用者を集約したものの

# 従来の施設は、施設内だけが対象



# 定額払いの包括サービス



# 新たな方向

**地域限定サービス**  
(地域密着型サービス)

**住まいと介護の分離**  
(ホテルコストの負担・特定・ケアハウス・有料)

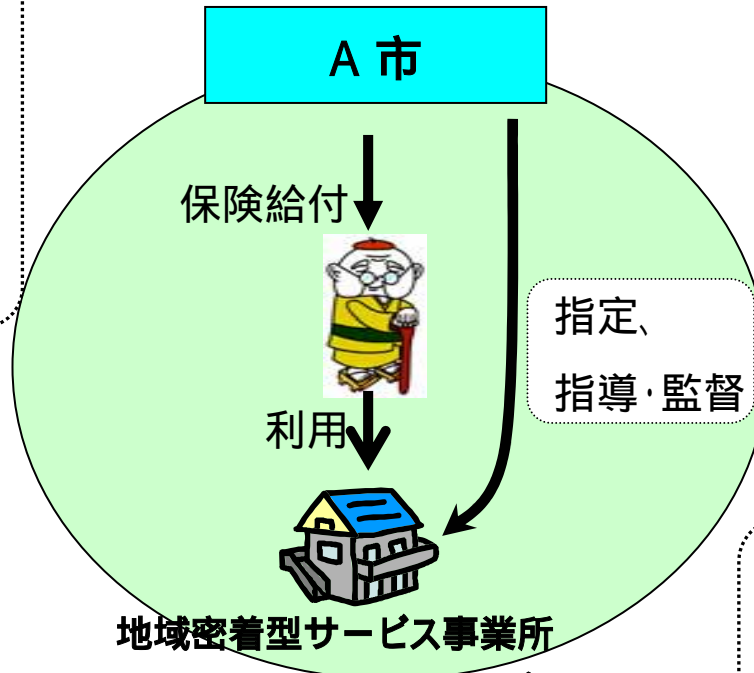
**サポートセンターとサテライト施設**  
(私たちのチャレンジ)

# 地域密着型サービスの創設

要介護者の住み慣れた地域での生活を支えるため、身近な市町村で提供されることが適当なサービス類型 (= 地域密着型サービス) を創設する。

## 1: A市の住民のみが利用可能

- ・指定権限を市町村に移譲
- ・その市町村の住民のみがサービス利用可能



## 2: 地域単位で適正なサービス基盤整備

市町村(それをさらに細かく分けた圏域)単位で必要整備量を定めることで、

- ・サービス基盤の整備が遅れているところでは、計画的な整備が可能に。
- ・過剰な整備は抑制される。

## 3: 地域の実情に応じた指定基準、介護報酬の設定( )

( )国が定める報酬の水準が上限

## 4: 公平・公正透明な仕組み

指定(拒否)、指定基準、報酬設定には、地域住民、高齢者、経営者、保健・医療・福祉関係者等が関与

### 地域密着型サービスに含まれるもの

- 小規模(定員30人未満)介護老人福祉施設
- 小規模(定員30人未満)介護専用型の特定施設
- 痴呆性高齢者グループホーム
- 痴呆性高齢者専用デイサービス
- 小規模多機能型居宅介護
- 地域夜間訪問介護

# 小規模多機能型居宅介護のイメージ

基本的な考え方: 「通い」を中心として、要介護者の様態や希望に応じて、随時「訪問」や「泊まり」を組み合わせてサービスを提供することで、中重度となっても在宅での生活が継続できるよう支援する。

利用者の自宅



在宅生活の支援

地域に開かれた透明な運営  
サービス水準・職員の資質の確保

管理者等の研修  
外部評価・情報開示

地域の関係者が運営状況を協議、評価する場を設ける

## 小規模多機能型居宅介護事業所

様態や希望により、「訪問」

「訪問」

人員配置は固定にせず、柔軟な業務遂行を可能に。  
どのサービスを利用して、なじみの職員によるサービスが受けられる。

「通い」を中心とした利用

様態や希望により、「泊まり」

報酬の定額制がポイント

(利用者)

1事業所の登録者は25名程度  
「通い」の利用者は15名程度を上限  
「泊まり」の利用者は5~9名程度を上限とし、「通い」の利用者に限定

(人員配置)

介護・看護職員  
日中: 通いの利用者3人に1人 + 訪問対応1人  
夜間: 泊まりと訪問対応で2人(1人は宿直可)  
介護支援専門員1人

(設備)

通いの利用者1人当たり3㎡以上  
泊まりは4.5畳程度でプライバシーが確保できるしつらえ

要介護度別の月単位の定額報酬

併設事業所で「居住」

(併設)

「居住」

グループホーム  
小規模な介護専用型の特定施設  
小規模介護老人福祉施設(サテライト特養等)  
有床診療所による介護療養型医療施設 等

小規模多機能型居宅介護と連続的、一体的なサービス提供  
職員の兼務を可能に。

**サポートセンターは地域における生活の継続を支えるシステム**

**サテライト型居住施設は既存施設から地域社会に戻るシステム**

**目的は一緒**

# サポートセンターのサービス (住まいと介護は分離)

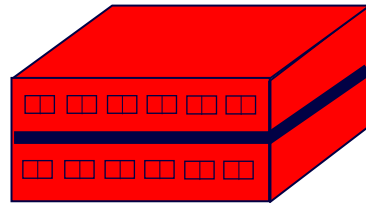
バリアフリー住居

グループホーム

ケアプランセンター

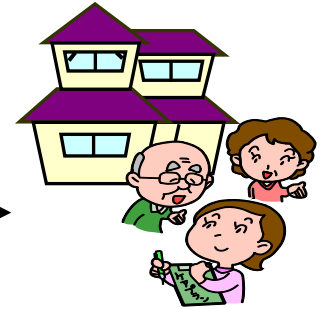
在宅介護支援センター

+



サポートセンター

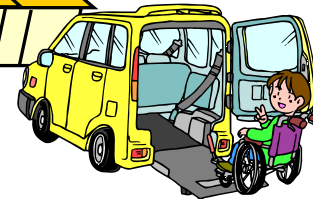
3食365日  
配食サービス



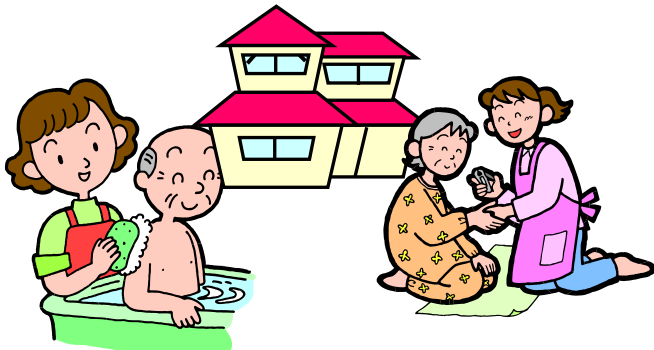
365日夜間  
緊急対応  
訪問看護



365日  
ワイドタイム  
デイサービス



24時間365日  
ホームヘルプ



フルタイム・フルサービスで周辺地域を支援する



# 施設機能の地域分散

サポートセンター

コンビニ型

ネットワーク型

コラボレート型

地域包括型生活支援センター

サテライト型居住施設

**居住部分は通常のアパートとして  
民間事業者が担当**

**介護部分はフルタイム・フルサービスを  
提供する社会福祉法人が担当**

**コラボレート型サポートセンター**





通所介護  
訪問看護  
訪問介護  
配食サービス  
在宅介護支援センター  
居宅介護支援事業所

こぶし園



バリアフリーアパート  
22.1㎡×8部屋

民間

